

# 特定非営利活動法人 持続可能なまちと交通をめざす再生塾

まちづくりや交通に携わる行政、交通事業者、コンサルタントの実務者や地方議員等を対象に、各フィールドの課題解決策の提案を通じた人材育成を行い、持続可能なまちと交通の実現に貢献。

## (取組の概要)

### 1. 多様な主体の実質的参画

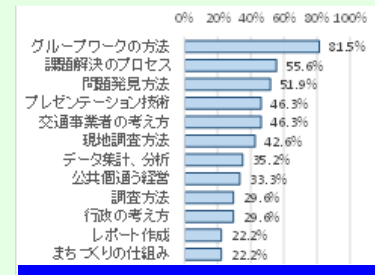
- まちづくりや交通に携わる行政、交通事業者、コンサルタントの実務者や地方議員を対象にプログラムを提供。
- 学識経験者、行政関係者、技術者の有志らが運営に参画しており、ラーニングファシリテーター(LF)として塾生をサポート。
- 塾生は、チームに分かれて課題解決策を議論。議論を通じて各種知識・スキルが身につくとともに、**バックグラウンドが異なる者同士で議論を行うことが大きな刺激**となったとの塾生の声が多い。



グループワークの様子  
(LFが参加者をサポート)

### 2. 創意工夫

- 「基礎編セミナー」及び「アドバンスドコース」を基本のプログラムとして用意。また、行政団体の職員だけでなく、地方議員を対象とした「地方議員対象セミナー」も開催。さらに、統計等の活用方法を教える「技術セミナー」も開催。**10年以上取組を行っており、全コースで延べ1,229名が参加。**
- 「アドバンスドコース」では、実際の自治体・交通事業者に対して課題解決策を提案する場を提供(これまでに**自治体:14団体、交通事業者:12団体(計26団体)に対して提言を実施**)。
- 「再生塾」という名称ではあるものの、一般的な塾のような特定の答えを教える形式ではなく、**参加者間での自由な議論を前提に、課題発見や解決策検討のプロセスを経験してもらう**ことが目的。



受講を通じて身につけた知識・スキル

### 3. 自立性・継続性

- 人材育成には相当の労力と時間が必要であると考え、着実に継続した活動を行うべく、NPO法人として平成21年に立ち上げた。
- 塾生をサポートするLFの育成にも力を入れており、取組開始時には理事7名がLFであったところ、アドバンスドコース修了生等がLFとなり、現在は18名にまで増加している。
- 自治体や交通事業者への提言により、公共交通の利便性が向上。【提言を通じて、持続可能な交通を実現】**  
(例)再生塾の提言を参考にした京都バス株式会社が、京都市交通局と協力し、利用者の利便性向上策(バス停名及びバス車内案内表示の統一による乗継ぎの円滑化等)を実施。**バス利用者数増加の一因となった**(2012年→2018年で約20%増加。)
- また、修了生が所属組織内のリーダーとなり、塾を通じて学んだ技術や交流関係を活かしながら各種取組を実現。(特に、市町村の交通担当者は1~2名ほどであり、相談相手が組織内に存在しないこともあるため、貴重なつながりとなっている。)**【塾生が組織内でリーダーとして活躍し、組織の活性化に貢献】**  
(例)・再生塾を修了した塾生同士で、各地の新型コロナウイルス対策事業について情報交換。当該情報を参考とし、市職員が、**当該市における乗合バス向け感染防止対策事業を取り仕切った。**  
・再生塾を修了した民間事業者の職員が、塾を通じて学んだ現地調査・データ分析・コスト分析等の手法を用いて社内での提案を行い、**新たな交通モードの実証実験を実施することとなった。**



バス車内案内表示の統一  
(左:京都市交通局 右:京都バス)